



琉球大学国際教育センター紀要

(琉球大学留学生センター紀要 通算 20 号)

第 7 号

Bulletin of Global Education Center University of the Ryukyus

Vol.7

琉球大学グローバル教育支援機構
国際教育センター
2023 年

*Global Education Institute,
Global Education Center
University of the Ryukyus
2023*



目 次

研究論文

高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは
——質的調査法・量的調査法を用いた Can-do statements の構築——

.....葦原 恭子, 塩谷由美子, 島田めぐみ, 奥山 貴之, 野口 裕之 1

実践報告

TV 版『ドラえもん』を使った授業について

.....佐々木香代子 14

Contents

Research Articles

ASHIHARA Kyoko, SHIOTANI Yumiko, SHIMADA Megumi, OKUYAMA Takayuki, NOGUCHI Hiroyuki

What are the Four Japanese Skills Required of Highly skilled Foreign Personnel:
Constructing Can-do statements using qualitative and quantitative research methods..... 1

Practical Report

SASAKI Kayoko

Practical Report on Japanese class using the TV version of “Doraemon”
..... 14

高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは

— 質的調査法・量的調査法を用いた Can-do statements の構築 —

葦原 恭子, 塩谷由美子, 島田めぐみ, 奥山貴之, 野口裕之

要 旨

近年, 日本においては, 経済のグローバル化が進展する一方で, 少子高齢化が進んでいる。日本政府は, 外国人留学生が高度外国人材として日本企業へ就職し, 活躍することを促進している。しかし, 高度外国人材に求められるビジネス日本語能力の習熟度の判定は難しく, その評価基準も定まっていないのが現状である。したがって, 高度外国人材の育成・教育・評価に資するビジネス日本語の枠組構築は, 喫緊の課題である。そこで, 本研究チームは, 「ビジネス日本語フレームワーク」(以下, BJFW とする) の構築・確立を目指している。フレームワーク構築にあたり, まず, 既存の尺度(CEFR 2001 等)の例示的能力記述文(以下, Can-do とする)をビジネスタスクとして書き換え, 追記し, Can-do バンクに約 800 項目を登録した。その後, 質的調査を経て, BJFW の「聞く・読む・書く・話す」に関する Can-do 59 項目を構築した。本研究では, 日本国内外で勤務する高度外国人材を対象に, Can-do 59 項目の経験の有無と自己評価に関する量的調査を実施したところ, 業務経験の有無が自己評価に与える影響の一端が明らかとなった。

【キーワード】 ビジネス日本語フレームワーク, CEFR Companion-volume, 四技能,
ビジネス日本語能力, ビジネスコミュニケーション

1. 研究の背景

近年, 日本においては, 経済のグローバル化が進展する一方で, 少子高齢化が進んでいる。そのため, 日本政府は, 外国人留学生が高度外国人材として日本企業に就職し, 活躍することを促進している。しかし, 高度外国人材に求められるビジネス日本語能力の習熟度の判定は難しく, その評価基準も定まっていないのが現状である。したがって, 高度外国人材の育成・教育・評価に資するビジネス日本語の枠組構築は, 喫緊の課題である。ビジネス日本語に関する Can-do statements (以下, Can-do とする) については, BJT ビジネス日本語能力テストに基づく Can-do が公表されている(葦原 2014)。また, 厚生労働省(2020)は, 「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」として CEFR を援用した A1~B2 レベルの Can-do を公表した。しかし, CEFR を援用した高度外国人材対象の B2 レベル以上の Can-do は, 管見の限り公表されていない。本研究は, 汎用的な評価基準となる「ビジネス日本語フレームワーク(BJFW)」の構築を目的としている。このフレームワークは, 高度外国人材の育成・教育・評価に資する枠組みとなる。BJFW 構築のプロセスには「直観的手法」, 「質的調査法」, 「量的調査法」がある。本研究では, まず, 直観的手法を用い, 既存の尺度として, 2001 年版 CEFR (以下, CEFR 2001 とする), CEFR 2018 補遺版(以下, CEFR-CV 2018 とする), JF 日本語教育スタンダード, TOEIC Can-Do guide から Can-do 項目を抽出し, ビジネスタスクとして書き換えた。次いで, 質的調査法として高度外国人

高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは
 一質的調査法・量的調査法を用いた Can-do statements の構築—
 (葦原, 塩谷, 島田, 奥山, 野口)

材の就職支援等に携わる日本人専門家 3 名・高度外国人材 2 名を対象にアンケートを実施し、Can-do 項目の必要度・難易度を確認するとともに、それらの表現について、疑問点・改善点等の助言を得た。これらの調査結果を Can-do 項目に反映し、各項目の精査・修正をした結果、全項目数は、170 項目となった (表 1)。

本研究では、BJFW の「聞く・読む・書く・話す」の 59 項目について、日本国内外で勤務する高度外国人材 237 名を対象に、Can-do 項目の経験の有無と自己評価に関する量的調査を実施したところ、業務経験の有無が自己評価に与える影響の一端が明らかとなった。

表 1 BJFW Can-do 項目数

聞く	11
読む	13
書く	18
話す	17
やりとり	20
会議・商談	16
仲介活動	49
仲介ストラテジー	11
オンライン業務	15
合計	170

2. 研究の目的

本研究では、Can-do の各項目について高度外国人材の経験の有無および自己評価を明らかにする。RQ は、次の 2 点である。1) 経験の有無が自己評価に影響を与えているかどうか。2) 自己評価が特に高い項目および低い項目の特徴は何か。

3. 研究の方法

本研究の方法は、次の通りである。1) 業務上の「聞く・読む・書く・話す」活動に関する Can-do を構築する。2) 構築した Can-do を用い、高度外国人材を対象に、各項目の経験の有無及び自己評価に関するアンケート調査を実施する。3) アンケート結果を統計処理し、業務に関する経験の有無が自己評価に与える影響を明らかにする。

4. 業務上の「聞く・読む・書く・話す」活動 Can-do の構築

4.1 Can-do 構築のプロセス

本研究は、BJFW の Can-do 項目バンクに登録すべく、業務上の「聞く・読む・書く・話す」活動 Can-do について、まず、直観的手法を用い、次のようなプロセスで構築した。1) CEFR, JF 日本語教育スタンダード, TOEIC Can-Do guide から Can-do 項目を抽出し、ビジネスタスクに置き換える。2) ビジネスタスクに置き換えられないもの、ビジネスタスクとしては易しすぎるものはリストから除外する。3) Pre-A1~C2 としてレベル設定されていても、類似したタスクが含まれているものは統合する。4) Pre-A1~C2 のレベル差を設定するために用いられる条件、例えば、「翻訳がぎこちないが」、「発話に間違いがあるが」などについては削除し、タスクの難易度によってレベル差をつける。5) Can-do 項目は、BJFW の能力記述文項目バンクに登録する。

質的調査法においては、次のようなプロセスで Can-do 項目を精査・修正・確定した。1) 高度外国人材の就職支援に携わる日本人の専門家 3 名が、項目バンクに登録された Can-do 項目について、その必要度（「全く必要ではない = 1」から「とても必要である = 5」の 5 段階）で評価した。さらに各項目について問題点や改善点等、気づいたこと（例：表現がわかりにくい、場面が想像しにくい、意味がわからない等）についてコメントをした。3) 日本で就業している高度外国人材 2 名が、Can-do 項目について、経験の有無とその必要度、自己評価（「ほとんどできない = 1」から「問題なくできる

=5) の5段階) を回答した。さらに、各項目について問題点や改善点等についてコメントした。4) 質的調査で得た評価とコメントを元に、さらに Can-do 項目を精査・修正し、項目を確定した。

4.2 BJFW 「聞く」活動 Can-do

「聞く」活動 Can-do として BJFW に追加された Can-do の 10 項目の修正プロセスは、表 2 の通りである。項目 10 については、難易度が異なるタスクが複数含まれていたため、2 項目に分割し、項目 10、項目 11 とした。また、表 3 の 2 項目はリストから削除した。

表 2 「聞く」活動 Can-do の修正

1	修正前	上司や同僚からの業務上の指示を聞いて、理解することができる。(例: 機器使用法, スケジュール, イベント準備, 引継ぎ, トラブル対応など)
	コメント	「指示」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	日本語による上司や同僚からの業務上の指示を聞いて、理解することができる。(例: 機器の使い方, スケジュール, イベント準備, 引継ぎ, トラブル対応など)
2	修正前	社内や社外のアナウンスを聞いて、理解することができる。(例: イベントでの場所・時間の案内, 社内の呼び出し, 社外での災害情報など)
	コメント	「アナウンス」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	日本語による社内や社外のアナウンスを聞いて、理解することができる。(例: イベントでの場所・時間の案内, 社内の呼び出し, 社外での災害情報など)
3	修正前	上司や同僚が話している業務上の会話や非公式な会話を近くで聞いて、要点を理解することができる。
	コメント	「非公式な会話」「近くで聞いて」とあると、盗み聞き (eavesdropping) の要素が入っている。
	修正後	上司や同僚が日本語で話している業務上の会話の要点を理解することができる。
4	修正前	自分の担当業務に関する上司や同僚からのアドバイスやコメントの内容を理解することができる。
	コメント	「アドバイスやコメント」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	自分の担当業務に関する上司や同僚からの日本語によるアドバイスやコメントの内容を理解することができる。
5	修正前	自分がしたプレゼンテーションに関する上司や同僚からのアドバイスやコメントの内容を理解することができる。
	コメント	「アドバイスやコメント」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	自分がしたプレゼンテーションに関する上司や同僚からの日本語によるアドバイスやコメントの内容を理解することができる。
6	修正前	社外の人や顧客からの苦情や要求・要望の内容を理解することができる。
	コメント	「苦情や要求・要望」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	社外の人や顧客からの日本語による苦情や要求, 要望の内容を理解することができる。
7	修正前	自分の担当分野や取引先・商品・取扱説明書などについてのプレゼンテーションの内容を理解することができる。
	コメント	プレゼンテーションが幅広いため、特定した方がよい。
	修正後	取引先の人による商品や取扱説明書などについての日本語のプレゼンテーションを聞いて、内容を理解することができる。
8	修正前	自分の業務内容に関係する日本語による講演やセミナーを聞いて要点を理解することができる。
	コメント	「自分の」と特定するのではなく、削除し、幅広い業務内容とする。
	修正後	業務内容に関係する日本語による講演やセミナーを聞いて要点を理解することができる。
9	修正なし	業務上で何かを選ばなければならないときに、日本語による説明を聞いて、いくつかの案の違いを理解することができる。(例: 出張プラン・イベント案・社内で購入するものなど)
10	修正前	会議のときに、議論を聞いて、議論の流れやそれぞれの考えの要点を理解することができる。
	コメント	「会議」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。担当業務に関するか否かで難易度が異なる。
	修正後	日本語による会議のときに、担当業務に関する議論を聞いて、その流れや参加者それぞれの考えの要点を理解することができる。
11	修正後	日本語による会議のときに、担当業務には関係がない議論を聞いて、その流れや参加者それぞれの考えの要点を理解することができる。

表 3 「聞く」活動 Can-do から削除された項目

修正前	ラジオを聞いて、業務に関係がある情報を理解することができる。(例: 交通情報など)
コメント	ラジオという端末を利用していない企業が増えているのではないか。ラジオで伝えるような公共的な価値のある情報(交通情報, 天気など)は、多言語で提供されている可能性が高く、必ずしも日本語でインプットする必要性がない。
修正前	留守番電話のメッセージを聞いて、相手の要求や説明を理解することができる。
コメント	業務時間外を含め、最近では会社の固定電話の留守電の設置がない企業が多い。急ぎの要件はメールでも同時に連絡している可能性もある。

高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは
 一質的調査法・量的調査法を用いた Can-do statements の構築—
 (葦原, 塩谷, 島田, 奥山, 野口)

4.3 BJFW 「読む」活動 Can-do

「聞く」活動 Can-do として BJFW に追加された Can-do 13 項目の修正プロセスは、表 4 の通りである。項目 8 および 12 については、難易度が異なるタスクが複数含まれていたため、それぞれ 2 項目に分割した。

表 4 「読む」活動に関する Can-do

1	修正前	ビジネスに関する情報を読んで探し出すことができる。(例：イベントや会議の開催日・場所・内容、出張日程など)
	コメント	「ビジネスに関する情報」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	日本語で書かれた文書を読んで、業務に関する必要な情報を探し出すことができる。(例：イベントや会議の開催日・場所・内容、出張日程など)
2	修正前	印刷物やウェブサイトのカタログ・仕様書に目を通して、自社や他社の商品や製品の特徴などの必要な情報を探し出すことができる。
	コメント	「印刷物やウェブサイト」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	日本語で書かれた印刷物やウェブサイトのカタログ・仕様書に目を通して、自社や他社の商品や製品の特徴などの必要な情報を探し出すことができる。
3	修正前	報告書や議事録、見積書などに目を通して、業務に必要な判断をするために、情報を探し出すことができる。
	コメント	「報告書や議事録、見積書」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	日本語で書かれた報告書や議事録、見積書などに目を通して、業務に必要な判断をするために、情報を探し出すことができる。
4	修正前	メールやコメントなどを読んで、要点を理解することができる。(例：出張報告書、業務連絡のメール、礼状、アンケートの記述式回答、アンケートのクレームなど)
	コメント	「メールやコメント」が日本語によるものか、他の言語によるものか、どのような内容なのか明記されていない。
	修正後	日本語で書かれた業務に関するメールやコメントなどを読んで、要点を理解することができる。
5	修正前	イベントの報告書を読んで、要点を理解することができる。(例：展示会、商談会、説明会など)
	コメント	「イベントの報告書」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	日本語で書かれたイベントの報告書を読んで、要点を理解することができる。(例：展示会、商談会、説明会など)
6	修正前	新聞、雑誌、ウェブサイトの記事などを読んで、要点を理解することができる。
	コメント	「記事」が日本語によるものか、他の言語によるものか、どのような内容なのか明記されていない。
	修正後	日本語で書かれた業務に関する新聞、雑誌、ウェブサイトの記事などを読んで、要点を理解することができる。
7	修正前	請求書を読んで、注文内容と違いがないかを確認することができる。
	コメント	「請求書」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	日本語で書かれた請求書を読んで、注文内容と違いがないかを確認することができる。
8	修正前	自分が出席したか、していないかに関わらず会議の議事録を読んで要点を理解することができる。
	修正前	自分が出席したか、していないかに関わらず会議の議事録を読んで詳細まで理解することができる。
	コメント	「自分が出席したか、していないか」によって難易度が異なる。業務であれば「要点」の理解のみではなく、「詳細まで」理解しなければならないのではないか。
修正後	自分が出席した会議の議事録を日本語で読んで、内容を理解することができる。	
9	修正後	自分が出席していない会議の議事録を日本語で読んで、内容を理解することができる。
10	修正前	業務の引継ぎメモやスケジュールに関するメモを読んで、理解することができる。
	コメント	「メモ」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。「メモ」の定義がはっきりしない。「メモ」を業務上で使用することは稀ではないか。メールやチャットを活用するのではないか。
	修正後	日本語で書かれた業務の引継ぎ事項やスケジュールに関する文書を読んで、理解することができる。
11	修正前	取引に関する契約書を読んで、条件や特記事項を要点を理解することができる。
	修正前	取引に関する契約書を読んで、条件や特記事項を詳細まで理解することができる。
	コメント	「契約書」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。業務であれば「要点」の理解のみではなく、「詳細まで」理解しなければならないのではないか。
修正後	日本語で書かれた取引に関する契約書を読んで、条件や特記事項を理解することができる。	
12	修正前	自分の専門分野の論文や専門的な報告書、マニュアルを読んで、研究目的や商品開発の方法・結果を理解することができる。
	コメント	「論文や報告書」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。読むべき対象が多岐に渡りすぎている。専門分野の報告書とマニュアルでは難易度が異なるのではないか。
	修正後	日本語で書かれた業務に関する専門分野の論文や報告書を読んで、目的・方法・結果を理解することができる。
13	修正後	日本語で書かれた業務に関するマニュアルを読んで、内容を理解することができる。

4.4 BJFW 「書く」活動 Can-do

「書く」活動 Can-do として BJFW に追加された Can-do の 18 項目の修正プロセスは、表 5 の通りである。項目 4 については、難易度が異なるタスクが複数含まれていたため、2 項目に分割した。

表 5 「書く」活動 Can-do

1	修正前	業務の引継ぎのために報告書を書くことができる。
	コメント	「報告書」が日本語によるものか、他の言語によるものか、どのような形態で書かれるのか明記されていない。
	修正後	業務の引継ぎのために、日本語でメールや文書を書くことができる。
2	修正前	自分が参加した研修やプロジェクトや担当業務に関わる講演について、報告書を書くことができる。
	コメント	「報告書」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。状況が伝わりにくい。
	修正後	研修に参加したり、担当業務に関わる講演を聞いたりしたときに、日本語で報告書を書くことができる。
3	修正後	担当したプロジェクトについて日本語で報告書を書くことができる。
4	修正前	出張先での業務や成果について、報告書を書くことができる。(例 メール、報告書)
	コメント	「報告書」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。報告の媒体によって難易度が異なる。
	修正後	出張先での業務や成果について日本語で報告のメールを書くことができる。
5	修正後	出張先での業務や成果について日本語で報告書を書くことができる。
6	修正前	業務に関する調査結果について、分析と考察を含むわかりやすい報告書を書くことができる。(例 マーケティング調査 実験結果など)
	コメント	報告書が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。例を挙げると、対象が限定される。
	修正後	業務に関する調査結果について、分析と考察を含むわかりやすい報告書を日本語で書くことができる。
7	修正前	自社製品や商品について、競合他社の製品や商品と比較しながら、分析して報告書を書くことができる。
	コメント	「報告書」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	自社製品や商品について、競合他社の製品や商品と比較しながら、分析して、日本語で報告書を書くことができる。
8	修正前	新聞、インターネットなどから集めた担当業務に関する情報を要約して、報告書を書くことができる。
	コメント	「報告書」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	新聞、インターネットなどから集めた担当業務に関する情報を要約して、日本語で報告書を書くことができる。
9	修正前	自社のウェブサイトやパンフレットに自社商品や製品や企画の特徴やセールスポイントを詳しく書くことができる。
	コメント	「書くべき対象」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。語順が不自然である。
	修正後	商品・製品・企画の特徴およびセールスポイントをウェブサイトやパンフレットに日本語で詳しく書くことができる。
10	修正前	会議の内容について参加者から出た色々な情報や議論を要約して、議事録を書くことができる。
	コメント	「議事録」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。文章が冗長である。
	修正後	会議での報告と議論を要約して、日本語で議事録を書くことができる。
11	修正前	会議の内容について参加していない人にわかりやすく簡潔なメールを書いて報告することができる。
	コメント	「メール」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。「書いて報告」は冗長である。
	修正後	会議に参加していない人に、内容について、わかりやすく簡潔な報告のメールを日本語で書くことができる。
12	修正前	取引先からの計画変更の依頼メールに対して、どのような対処が可能か明確に説明し、代案を示した返信を書くことができる。
	コメント	「返信」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	取引先からの計画変更の依頼メールに対して、どのような対処が可能か明確に説明し、代案を示した返信を日本語で書くことができる。
13	修正前	新しいプロジェクトや業務について、目的や予算など、その必要性がわかる起案書を書くことができる。
	コメント	「書くべき対象」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	新しいプロジェクトや業務について、目的や予算など、その必要性がわかる起案書を日本語で書くことができる。
14	修正前	目的に合わせて、ビジネス文書のサンプルやテンプレートを選んで、メールや文書を書くことができる。
	コメント	「書くべき対象」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。表現が冗長である。
	修正後	ビジネス文書のサンプルを参考にして、メールや文書を日本語で書くことができる。
15	修正前	プレゼンテーションをするために、自分で要点をまとめて資料を作ることができる。
	コメント	「資料」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	プレゼンテーションをするために、自分で要点をまとめて日本語の資料を作ることができる。
16	修正前	社外から依頼の文書が来たときに、相手の気持ちを考えながら、丁寧な断りのメールを書くことができる。
	コメント	「文書」と「メール」が呼応しない。常に「丁寧さ」が必要かどうかは疑問であり、状況によって異なる。
	修正後	社外から依頼のメールや文書が来たときに、日本語で適切な断りの返事を書くことができる。
17	修正前	苦情や問い合わせのメールや文書が来たときに、状況に応じて適切な返事を書くことができる。
	コメント	「返事」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。表現が冗長である。
	修正後	苦情や問い合わせのメールや文書が来たときに、日本語で適切な返事を書くことができる。
18	修正前	取引できそうな相手に自社のサービスや製品を説明する文書を書くことができる。
	コメント	「文書」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。報告の媒体によって難易度が異なる。
	修正後	取引できそうな相手に、自社が提供するサービスや製品を説明するメールや文書を日本語で書くことができる。

高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは
 一質的調査法・量的調査法を用いた Can-do statements の構築—
 (葦原, 塩谷, 島田, 奥山, 野口)

4.5 BJFW 「話す」活動 Can-do

「話す」活動 Can-do として BJFW に追加された Can-do の 17 項目の修正プロセスは、表 6 の通りである。項目 2 および 11 については、難易度が異なるタスクが複数含まれていたため、それぞれ 2 項目 2, 17 および 11, 12 に分割した。また、表 7 の 1 項目はリストから削除した。

表 6 「話す」活動 Can-do

1	修正前	社外の人に自社について紹介することができる。
	コメント	「紹介」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	社外の人に自社について、 日本語 で紹介することができる。
2	修正前	オフィス機器をレンタルやリースするときに、1ヶ月の経費やメンテナンスについて業者に質問したり、機材に問題が生じたとき、状況を説明し、リース会社に苦情を言ったりすることができる。
	コメント	タスクとなる状況が複数含まれており、難易度も異なる。
	修正後	オフィス機器をレンタル・リースして、問題が生じたとき、 日本語 で状況を説明したりすることができる。
17	修正後	オフィス機器を購入したり、レンタルしたりするとき、 日本語 でメンテナンスや経費について質問をし、どのような商品が必要か説明することができる。
3	修正前	出張後に、同僚や上司に口頭で詳しい報告をすることができる。
	コメント	「報告」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	出張後に、同僚や上司に 日本語 で口頭により、詳しく報告することができる。
4	修正前	資料の作り方やオフィス機器の使い方などを部下や後輩に説明することができる。
	コメント	「説明」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	資料の作り方やオフィス機器の使い方などを同僚に 日本語 で説明することができる。
5	修正前	イベント会場で、離れた場所にいる取引先の人を特定するために、その人の位置や特徴などについて、同僚や上司に簡単な言葉で説明することができる。
	コメント	「説明」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	イベント会場で、離れた場所にいる取引先の人を特定するために、その人の位置や特徴などについて、同僚や上司に 日本語 で説明することができる。
6	修正前	商談や打ち合わせなど、主に社外とのフォーマルなやりとりの場面で、参加者の人となりや経歴などを、紹介することができる。
	コメント	「紹介」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。「主に」とあり場面が特定されていない。
	修正後	商談や打ち合わせなど、 社外とのやりとりの場面 で、参加者のプロフィールを 日本語 で紹介することができる。
7	修正前	営業の場面で顧客に商品やサービスに関する説明を詳しくすることができる。(例: 流通の仕組みや商品を買うことの意味について)
	コメント	「説明」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。例がわかりにくく、限定的すぎる。
	修正後	営業の場面で顧客に、 商品や自社が提供するサービスに関する説明を日本語 で詳しくすることができる。
8	修正前	職場の特徴を表わすエピソードや職場での体験や感想を含んだスピーチをすることができる。(例: 新入社員歓迎会)
	コメント	「スピーチ」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。表現が冗長である。
	修正後	社内で職場での体験や感想を含んだスピーチを 日本語 ですることができる。(例: 新入社員歓迎会など)
9	修正前	取引先から納品された物に間違いが生じたとき、状況を説明し、苦情を言うことができる。
	コメント	「苦情」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。表現が冗長である。
	修正後	取引先からの納品に間違いがあったとき、 日本語 で状況を説明することができる。
10	修正前	業務を停滞させるようなトラブルが起こった時に、問題と原因を上司や同僚に説明することができる。
	コメント	「説明」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	業務を停滞させるようなトラブルが起こった時に、問題と原因を上司や同僚に 日本語 で説明することができる。
11	修正前	プロジェクトの手順などを順序立てて上司・同僚・社外の人に説明することができる。
	コメント	「説明」日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。対象者によって難易度が異なる。
	修正後	プロジェクトの手順などを順序立てて、 上司・同僚に日本語 で説明することができる。
12	修正後	プロジェクトの手順などを順序立てて、 社外の人に日本語 で説明することができる。
13	修正前	イベントの準備で当日の状況を予測しながら作業手順や分担方法を比較し、それぞれの利点や問題点について意見を言うことができる。
	コメント	「意見」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。表現がわかりにくい。
	修正後	イベントの準備をするときに、 当日の状況を予測しながら 、作業手順や分担方法を比較し、それぞれの利点や問題点について、 日本語 で意見を言うことができる。
14	修正なし	インタビューのときにスムーズに話を発展させ、問投詞やあいづちもうまく使いながらインタビューすることができる。

15	修正前	今まで取引をしている企業からの新しい取引の提案を断る時に今後の良好な関係を維持し、相手に配慮しながら断ることができる。
	コメント	「断り」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	今まで取引をしている企業からの新しい取引の提案を断るときに、今後の良好な関係を維持し、相手に配慮しながら日本語で断ることができる。
16	修正前	今まで取引がなかった企業からの取引の引き合いを断る時に今後の良好な関係のために相手に配慮しながら断ることができる。
	コメント	「断り」が日本語によるものか、他の言語によるものか明記されていない。
	修正後	今まで取引がなかった企業からの取引の引き合いを断るときに、今後の良好な関係のために相手に配慮しながら日本語で断ることができる。

表7 「話す」活動 Can-do から削除された項目

修正前	適当な個人情報や仕事への姿勢を表明しながら自己紹介をすることができる。
コメント	BJFW の他のジャンルの項目と重複しているため、削除。

5. 高度外国人材が携わる業務上の「聞く・読む・書く・話す」活動に関する量的調査

5.1. アンケート調査の概要

本研究では、質的調査法により確定した「聞く・読む・書く・話す」の59項目について、量的調査として、国内外で就業し、日本語を使用して業務にあたっている高度外国人材を対象に Microsoft フォームを利用し、アンケート調査を実施した。実施期間は、2022年2月～3月である。調査項目は次の通りである。1) 調査回答者のプロフィール：出身地・母語・日本語学習歴・日本語レベル・業種・部署名・役職名・勤続年数・勤務地・職種・業種。2) 業務上の「聞く」11項目、「読む」13項目、「書く」18項目、「話す」17項目の全59項目について経験の有無を確認する。3) 59項目について「ほとんどできない = 1」から「問題なくできる = 5」の5段階で自己評価する。その結果、日本国内外（国内115、国外122）で勤務する30カ国・地域出身者237名から回答を得た。調査回答者の概要は、表8の通りである。

表8 調査回答者の概要 () は人数

出身地	中国 (75) 台湾 (40) 韓国 (26) ドイツ (20) タイ (17) インドネシア (10) ベトナム (10) マレーシア (5) フランス (4) 日本 (4) ミャンマー (3) スウェーデン (2) ウズベキスタン (2) スペイン (2) ボリビア (2) パラオ (2) アメリカ (1) イタリア (1) モンゴル (1) カナダ (1) インド (1) イギリス (1) ネパール (1) ルーマニア (1) カザフスタン (1) イラン (1) シンガポール (1) セネガル (1) ハンガリー (1)
勤務地	日本国内 (115) 日本国外 (122)
JLPT	N1/旧1級 (151) N2/旧2級 (53) N3 (7) 該当なし (26)
日本語学習歴	1年未満 (2) 1～2年 (11) 2～3年 (17) 3～4年 (11) 4～5年 (19) 5～6年 (14) 6年以上 (163)
業種	教育・学習支援業 (39) 製造業 (35) 情報通信業 (32) 卸売・小売業 (21) 金融・保険業 (19) 貿易業 (17) 宿泊・飲食サービス業 (13) 娯楽業 (7) 人材派遣業 (6) 農業・林業 (1) 旅行業 (5) 運輸業 (4) 公務員 (4) 不動産業 (2) 大使館員 (2) コンサルティング業 (2) その他 (28)
役職	役職なし (157) 管理職 (38) 役員 (11) 主任・チーフ (26) 経営者 (5)
勤続年数	1年未満 (53) 1～2年 (45) 2年～3年 (35) 3年～4年 (12) 4～5年 (15) 5年以上 (77)
担当業務	専門・技術職 (43) 事務職 (68) 営業 (36) 教員 (22) 通訳・翻訳 (22) 接客・販売 (16) 研究職 (6) 広報・宣伝 (4) 経営 (3) その他 (17)

高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは
 一質的調査法・量的調査法を用いた Can-do statements の構築—
 (葦原, 塩谷, 島田, 奥山, 野口)

5.2. 業務上の「聞く・読む・書く・話す」活動 Can-do 調査

「聞く・読む・書く・話す」活動 Can-do については、項目毎に、経験の有無と自己評価（「ほとんどできない = 1」から「問題なくできる = 5」の5段階）を得た。

「聞く」活動 Can-do 項目の詳細と経験の「あり」「なし」別の自己評価の平均値および標準偏差は、表9の通りである。調査によって、次のことが明らかとなった。1) 経験率は、79.32%~96.26%と、4技能中で最も高かった。2) 全項目で「経験なし」と回答した者より「経験あり」と回答した者の方が、自己評価が高かった。3) 網掛けされた6項目（項目1,2,3,4,5,9）については、4.5以上と、比較的自己評価が高かった。これらの項目は、「指示を聞く」「業務上の会話を聞く」など一般的な業務に関するものであった。4) 比較的、自己評価が低かった項目（項目7,11）は、「取引先の人によるプレゼンテーションを聞く」「担当業務に関係がない議論を聞く」など、日常的に経験する業務ではない業務に関する活動であった。

表9 「聞く」活動 Can-do

	聞く	経験率 (N=237)	経験	n	M	SD
1	日本語による上司や同僚からの業務上の指示を聞いて、理解することができる。 (例：機器使用法、スケジュール、イベント準備・引継ぎ・トラブル対応など)	96.26	あり なし	228 9	4.57 3.33	0.64 1.22
2	日本語による社内や社外のアナウンスを聞いて、理解することができる。 (例：イベント場所・時間の案内、社内の呼び出し、社外での災害情報など)	83.54	あり なし	198 39	4.50 3.54	0.70 1.14
3	上司や同僚が日本語で話している業務上の会話の要点を理解することができる。	96.20	あり なし	228 9	4.53 2.56	0.69 1.01
4	日本語による自分の担当業務に関する上司や同僚からのアドバイスやコメントの内容を理解することができる。	95.36	あり なし	226 11	4.54 3.09	0.67 1.04
5	自分がしたプレゼンテーションに関する上司や同僚からの日本語によるアドバイスやコメントの内容を理解することができる。	81.86	あり なし	194 43	4.53 3.65	0.68 1.29
6	社外の人や顧客からの日本語による苦情や要求、要望の内容を理解することができる。	86.08	あり なし	204 33	4.43 3.12	0.70 1.34
7	取引先の人による商品や取扱説明書などについての日本語のプレゼンテーションを聞いて、内容を理解することができる。	79.75	あり なし	189 48	4.25 3.46	0.81 1.20
8	業務内容に関する日本語による講演やセミナーを聞いて要点を理解することができる。	79.32	あり なし	188 49	4.34 3.24	0.72 1.22
9	業務上で何かを選ばなければならないときに、日本語による説明を聞いて、いくつかの案の違いを理解することができる。(例：出張プラン・イベント案・社内で購入するものなど)	81.86	あり なし	194 43	4.51 3.26	0.69 1.43
10	日本語による会議のときに、担当業務に関する議論を聞いて、その流れや参加者それぞれの考えの要点を理解することができる。	84.81	あり なし	201 36	4.38 3.17	0.73 1.25
11	日本語による会議のときに、担当業務には関係がない議論を聞いて、その流れや参加者それぞれの考えの要点を理解することができる。	81.43	あり なし	193 44	4.20 2.91	0.81 1.29

「読む」活動 Can-do 項目の詳細と経験の「あり」「なし」別の自己評価の平均値および標準偏差は、表10の通りである。調査によって、次のことが明らかとなった。1) 経験率は、73.84%~92.41%と、「聞く」活動に次いで高かった。2) 全項目で「経験なし」と回答した者より「経験あり」と回答した者の方が、自己評価が高かった。3) 網掛けされた3項目（項目1,4,7,10）については、4.5以上で

あり、比較的自己評価が高かった。これらの項目を見ると、「業務に関するメールを読む」「業務の引き継ぎ事項やスケジュールを読む」など一般的な業務に関するものであった。4) 比較的、自己評価が低かった項目(項目11,12)は、「契約書を読む」「専門分野の論文や報告書を読む」など、専門的な業務に関する活動であった。

表10 「読む」活動 Can-do

	読む	経験率 (N=237)	経験	n	M	SD
1	日本語で書かれた文書を読んで、業務に関する必要な情報を探し出すことができる。(例: イベントや会議の開催日・場所・内容, 出張日程など)	92.41	あり なし	219 18	4.56 2.83	0.69 1.04
2	日本語で書かれた印刷物やウェブサイトのカatalog・仕様書に目を通して、自社や他社の商品や製品の特徴などの必要な情報を探し出すことができる。	85.23	あり なし	202 35	4.37 3.51	0.80 0.95
3	日本語で書かれた報告書や議事録, 見積書などに目を通して、業務に必要な判断をするために、情報を探し出すことができる。	82.28	あり なし	195 42	4.41 3.31	0.75 1.02
4	日本語で書かれた業務に関するメールやコメントなどを読んで、要点を理解することができる。	95.36	あり なし	226 11	4.54 3.09	0.67 1.04
5	日本語で書かれたイベントの報告書を読んで、要点を理解することができる。(例: 展示会, 商談会, 説明会など)	85.23	あり なし	202 35	4.49 3.63	0.72 1.19
6	日本語で書かれた業務に関する新聞, 雑誌, ウェブサイトの記事などを読んで、要点を理解することができる。	89.03	あり なし	211 26	4.35 3.08	0.80 1.16
7	日本語で書かれた請求書を読んで、注文内容と違いがないかを確認することができる。	85.23	あり なし	202 35	4.56 3.60	0.68 1.29
8	自分が出席した会議の議事録を日本語で読んで、内容を理解することができる。	80.17	あり なし	190 47	4.49 3.70	0.69 0.88
9	自分が出席していない会議の議事録を日本語で読んで、内容を理解することができる。	73.84	あり なし	175 62	4.32 3.50	0.80 0.97
10	日本語で書かれた業務の引き継ぎ事項やスケジュールに関する文書を読んで、理解することができる。	89.03	あり なし	211 26	4.55 3.15	0.67 1.19
11	日本語で書かれた取引に関する契約書を読んで、条件や特記事項を理解することができる。	77.64	あり なし	184 53	4.23 2.87	0.80 1.18
12	日本語で書かれた業務に関する専門分野の論文や報告書を読んで、目的・方法・結果を理解することができる。	74.68	あり なし	177 60	4.23 2.80	0.89 1.04
13	日本語で書かれた業務に関するマニュアルを読んで、内容を理解することができる。	88.61	あり なし	210 27	4.40 3.04	0.78 1.19

「書く」活動 Can-do 項目の詳細と経験の「あり」「なし」別の自己評価の平均値および標準偏差は、表11の通りである。調査によって、次のことが明らかとなった。1) 経験率は、52.32%~74.26%と、「聞く」「読む」活動に比べ低かった。2) 全項目で「経験なし」と回答した者より「経験あり」と回答した者の方が、自己評価が高かった。3) 網掛けされた1項目(項目1)については、比較的自己評価が高かった。これは、「業務の引き継ぎのためのメールや文書を書く」という一般的な業務に関するものであった。4) 最も自己評価が低かった項目(項目10)は、「会議での報告と議論を要約して、日本語で議事録を書くことができる」という項目であった。

高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは
 一質的調査法・量的調査法を用いた Can-do statements の構築—
 (葦原, 塩谷, 島田, 奥山, 野口)

表 11 「書く」活動 Can-do

	書く	経験率 (N=237)	経験	n	M	SD
1	業務の引継ぎのために、日本語でメールや文書を書くことができる。	55.70	あり なし	218 19	4.39 2.89	0.72 1.29
2	研修に参加したり、担当業務に関わる講演を聞いたときに、日本語で報告書を書くことができる。	59.49	あり なし	155 82	4.16 3.13	0.83 1.09
3	担当したプロジェクトについて日本語で報告書を書くことができる。	60.76	あり なし	151 86	4.23 3.24	0.82 0.96
4	出張先での業務や成果について日本語で報告のメールを書くことができる。	49.79	あり なし	146 91	4.30 3.47	0.75 1.12
5	出張先での業務や成果について日本語で報告書を書くことができる。	74.26	あり なし	132 105	4.25 3.30	0.84 1.12
6	業務に関する調査結果について分析と考察を含むわかりやすい報告書を日本語で書くことができる。	66.24	あり なし	137 100	4.26 3.10	0.79 1.05
7	自社製品や商品について、競合他社の製品や商品と比較しながら、分析して、日本語で報告書を書くことができる。	63.71	あり なし	104 133	4.24 3.04	0.83 1.04
8	新聞、インターネットなどから集めた担当業務に関する情報を要約して、日本語で報告書を書くことができる。	64.56	あり なし	126 111	4.29 3.20	0.75 1.13
9	商品・製品・企画の特徴およびセールスポイントを、ウェブサイトやパンフレットに日本語で詳しく書くことができる。	52.32	あり なし	107 130	4.19 2.96	0.86 1.04
10	会議での報告と議論を要約して、日本語で議事録を書くことができる。	55.70	あり なし	132 105	4.18 2.83	0.86 1.00
11	会議に参加していない人に、内容について、わかりやすく簡潔な報告のメールを日本語で書くことができる。	59.49	あり なし	141 96	4.34 3.20	0.74 1.09
12	取引先からの計画変更の依頼メールに対してどのような対処が可能か明確に説明し、代案を示した返信を日本語で書くことができる。	60.76	あり なし	144 93	4.32 3.04	0.82 1.08
13	新しいプロジェクトや業務について、目的や予算など、その必要性がわかる起案書を日本語で書くことができる。	49.79	あり なし	118 119	4.21 2.89	0.89 0.97
14	ビジネス文書のサンプルを参考にして、メールや文書を日本語で書くことができる。	74.26	あり なし	176 61	4.39 2.98	0.75 1.15
15	プレゼンテーションをするために、自分で要点をまとめて日本語の資料を作ることができる。	66.24	あり なし	157 80	4.25 3.07	0.86 1.02
16	社外から依頼のメールや文書が来たときに、日本語で適切な断りの返事を書くことができる。	63.71	あり なし	151 86	4.29 3.16	0.86 1.02
17	苦情や問い合わせのメールや文書が来たときに、日本語で適切な返事を書くことができる。	64.56	あり なし	153 84	4.23 2.96	0.85 1.05
18	取引できそうな相手に、自社が提供するサービスや製品を説明するメールや文書を日本語で書くことができる。	52.32	あり なし	124 113	4.37 2.96	0.76 1.12

「話す」活動 Can-do 項目の詳細と経験の「あり」「なし」別の自己評価の平均値および標準偏差は、表 12 の通りである。調査によって、次のことが明らかとなった。1) 経験率は、44.30%~77.22%と、4 技能中で最も低かった。2) 全項目で「経験なし」と回答した者より「経験あり」と回答した者の方が、自己評価が高かった。3) 網掛けされた 2 項目 (項目 1,9) については、4.45 以上と、比較的自己評価が高かった。これらは、「自社を紹介する」「納品間違いについて説明する」など一般的な業務に関するものであった。4) 最も自己評価が低かった項目 (項目 16) は「取引がなかった企業か

らの取引の提案を断る時に、今後の良好な関係のために相手に配慮しながら、日本語で断ることができる」という異文化間コミュニケーション能力を必要とすると思われる項目であった。

表 12 「話す」活動 Can-do

話す	経験率 (N=237)	経験	n	M	SD
1 社外の人に自社について、日本語で紹介することができる。	77.22	あり なし	183 54	4.47 3.15	0.72 1.20
2 オフィス機器をレンタル・リースするときに、経費やメンテナンスについて業者に日本語で質問したり、問題が生じたとき、状況を説明したりすることができる。	51.32	あり なし	124 113	4.38 3.27	0.75 1.15
3 出張後に同僚や上司に日本語で口頭により詳しく報告することができる。	66.24	あり なし	157 80	4.38 3.52	0.75 1.18
4 資料の作り方やオフィス機器の使い方などを同僚に日本語で説明することができる。	79.75	あり なし	189 48	4.48 3.00	0.70 1.24
5 イベント会場で、離れた場所にいる取引先の人を特定するために、その人の位置や特徴などについて同僚や上司に日本語で説明することができる。	58.23	あり なし	138 99	4.43 3.32	0.74 1.13
6 商談や打ち合わせなど、社外とのやりとりの場面で、参加者のプロフィールを日本語で紹介することができる。	54.85	あり なし	130 107	4.41 3.22	0.76 1.08
7 営業の場面で顧客に商品や自社が提供するサービスに関する説明を日本語で詳しくすることができる。	59.49	あり なし	141 96	4.37 3.13	0.77 1.14
8 社内で職場での体験や感想を含んだスピーチを日本語ですることができる。 (例：新入社員歓迎会など)	65.40	あり なし	155 82	4.41 2.96	0.73 1.07
9 取引先からの納品に間違いがあったとき、日本語で状況を説明することができる。	59.49	あり なし	141 96	4.45 3.35	0.72 1.21
10 業務を停滞させるようなトラブルが起こった時に、問題と原因を上司や同僚に日本語で説明することができる。	72.15	あり なし	171 66	4.43 3.17	0.73 1.22
11 プロジェクトの手順などを順序立てて、上司・同僚に日本語で説明することができる。	65.40	あり なし	155 82	4.35 3.35	0.70 1.09
12 プロジェクトの手順などを順序立てて、社外の人に日本語で説明することができる。	49.37	あり なし	117 120	4.40 3.28	0.73 1.08
13 イベントの準備で当日の状況を予測しながら作業手順や分担方法を比較し、それぞれの利点や問題点について日本語で意見を言うことができる。	55.70	あり なし	132 105	4.35 3.22	0.76 1.05
14 インタビューのときにスムーズに話を発展させ、あいづちもうまく使いながら、日本語でインタビューすることができる。	60.34	あり なし	143 94	4.29 2.94	0.80 1.06
15 取引をしている企業からの新しい取引の提案を断る時に、良好な関係を維持するために、相手に配慮しながら、日本語で断ることができる。	45.57	あり なし	108 129	4.37 2.83	0.71 1.04
16 取引がなかった企業からの取引の提案を断る時に、今後の良好な関係のために相手に配慮しながら、日本語で断ることができる。	44.73	あり なし	106 131	4.29 2.90	0.72 1.07
17 オフィス機器を購入したり、レンタルしたりするとき、日本語でメンテナンスや経費について質問をし、どのような商品が必要か説明することができる。	44.30	あり なし	105 132	4.44 3.26	0.68 1.15

本研究による Can-do 調査の結果、次のことが明らかとなった。1) 経験「あり」と回答した者の割合については、受容「聞く (79.3~96.2%) 読む (73.8~95.4%)」の方が産出「書く (43.9~92.0%) 話す (44.3~79.7%)」よりも比較的高かった。2) 全項目について、経験ありと回答した者は、経験

高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは
—質的調査法・量的調査法を用いた Can-do statements の構築—
(葦原, 塩谷, 島田, 奥山, 野口)

なしと回答した者よりも自己評価が高かった。3) 自己評価が最も高い Can-do 項目は、「聞く」の「日本語による上司や同僚からの業務上の指示を聞いて、理解することができる」(M4.52, SD 0.70) で、96.2%が経験ありと回答した。4) 比較的的平均値が高い項目 (M4.0 以上) は、一般的な業務に関するタスクであった。5) 自己評価が最も低い項目は、「書く」の「商品・製品・企画の特徴およびセールスポイントをウェブサイトやパンフレットに日本語で詳しく書くことができる」(M.3.51, SD 1.04) で、45.1%が経験ありと回答した。6) 比較的的平均値が低い項目 (M3.5 以下) は、専門的な業務や異文化間コミュニケーション能力を要する活動であった。

6. 今後の展望

今後は、全 Can-do 項目について量的調査を実施し、項目の難易度を推定するために IRT モデルによる分析を行う。その結果に基づき、Can-do 項目を難易度順に並べ、レベル設定 (Pre-A1~C2) を行い、尺度化し、BJFW を完成する。完成した BJFW は、高度外国人材の育成・教育・評価に資するべく、ウェブサイトで広く公表する計画である。

【引用文献】

- (1) 葦原恭子 (2014) 「ビジネス日本語 Can-do statements」 <http://business-japanese-cando.jp/> (2022年9月2日閲覧)
- (2) 厚生労働省 (2020) 「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」
<https://www.mhlw.go.jp/content/11800000/000773360.pdf> (2022年9月2日閲覧)
- (3) 国際交流基金 (2010) 「JF 日本語教育スタンダード」
<https://jfstandard.jp/top/ja/render.do;jsessionid=AACA3AB868B080146E3D06A759B5844F>
(2022年9月2日閲覧)
- (4) Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment*. <https://rm.coe.int/16802fc1bf> (2022年9月2日閲覧)
- (5) Educational Testing Service (2008) *TOEIC Can-Do Guide*.
<https://www.ets.org/s/toEIC/pdf/listening-reading-can-do-guide.pdf> (2022年9月2日閲覧)

※本稿は、科学研究補助金 基盤研究 (C) 「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの確立—尺度化と妥当性検証」課題番号 19K0071 (研究代表者・葦原恭子, 研究分担者・奥山貴之, 塩谷由美子, 島田めぐみ, 野口裕之) の研究成果の一部である。

(葦原—琉球大学, 塩谷—東京富士大学, 島田—日本大学,
奥山—沖縄国際大学, 野口—名古屋大学名誉教授)

What are the Four Japanese Skills Required of Highly skilled Foreign Personnel: Constructing Can-do statements using qualitative and quantitative research methods

ASHIHARA Kyoko, SHIOTANI Yumiko, SHIMADA Megumi
OKUYAMA Takayuki, NOGUCHI Hiroyuki

Abstract

【Keywords】 business Japanese Framework, CEFR Companion-volume, Japanese four skills
business Japanese competence, business communication

In recent years, the globalization of the economy has advanced in Japan, but on the other hand, the declining birthrate and an aging population have also progressed. The Japanese government encourages international students to work as highly skilled foreign personnel for Japanese companies. However, it is difficult to judge the proficiency in business Japanese required of highly skilled foreign personnel, and we need to establish evaluation criteria. Along with this situation, building a framework that contributes to human resource development, education, and evaluation of high-skilled foreign personnel has become an urgent issue.

We are building a "Business Japanese Framework" (BJFW). To build up BJFW, we have rewritten and added can-do statements of existing scales, such as CEFR 2001, as business tasks. We have already registered about 800 items in our can-do statements bank. After that, 59 Can-do items related to BJFW's "listening, reading, writing, and speaking" were constructed through qualitative research.

In this study, we conducted a quantitative survey on the presence or absence of Can-do item experience and self-evaluation targeting highly-skilled foreign professionals working in Japan and overseas. The survey we conducted clarified the impact of the presence or absence of work experience among highly skilled foreign professionals on self-evaluation.

(ASHIHARA: University of the Ryukyus, SHIOTANI: Tokyo Fuji University, SHIMADA: Nihon University,
OKUYAMA: Okinawa International University, NOGUCHI: Emeritus Professor of Nagoya University)

TV版『ドラえもん』を使った授業について

佐々木 香代子

1. はじめに

筆者は子ども時代、『ドラえもん』をほとんど見たことがなく、専ら、キャラクターとして「ドラえもん」を見ていた。子どもが育つ過程で、『ドラえもん』を見るようになり、筆者も子どもにつきあって見ていたのだが、やがて、『ドラえもん』の世界に魅了されるようになった。ドラえもんだけでなく、ジャイアン、スネ夫、しずか、のび太という個性のあるキャラクターが行う日常生活場面でのやりとり、そこには、「子どもが見るアニメ」という一言では片付けられないストーリーがあり、それでいてギャグ的な要素あるいは落語のような「オチ」もある。『ドラえもん』は海外でも有名な日本のアニメの1つではあるが、一般には、のび太がジャイアンやスネ夫にいじめられて「ドラえも～ん！！」と泣き叫ぶ場面のイメージが大きく、「困ったことがあると、すぐにドラえもんに泣きつくのび太と、そののび太を助けるドラえもん」の話といった理解がされていることが多い。筆者の見る限り、『ドラえもん』はそうした子ども向けギャクマンガ（アニメ）という要素だけで完結しているのではなく、そこにはストーリーがあり、その展開¹⁾には面白さがある。

TV版『ドラえもん』は、多くが1本15分前後の長さであり（前後編で40分弱の長いバージョンも稀にあるが）、視聴そのものに時間を要する必要がない。90分の授業時間内に、ストーリーの展開を追い、「オチ」を含めたストーリー理解を目標にして、複数回視聴を繰り返すことが可能である。筆者は、『ドラえもん』の、ギャクマンガとしての『ドラえもん』という理解、あるいは、のび太が「ドラえも～ん！！」と泣き叫ぶというワンパターンの理解ではなく、「ストーリー」の面白さを知ってもらいたいといった思いで、留学生を対象に授業として提供できないか、考えるようになった。

さて、筆者は、2018年度にサバティカルを取得し、2019年度に復帰したのだが、その時に、中上級レベルの聴解の授業のうち、C2レベルの授業が不開講になっていることを知った。そこで、この不開講科目を復活させる形でTV版『ドラえもん』を教材とする授業を2020年度から始めることにした。

2. なぜ『ドラえもん』なのか？

『ドラえもん』を学問として位置づけた横山(2004)は²⁾、「ドラえもん作品」を「藤子・F・不二雄氏が自ら描かれた作品で、しかもストーリー性のある作品」（横山2004:182）と定義し（計1,344話）、ドラえもん学の研究対象として、ドラえもん作品の正典を、『てんとう虫コミックス短編ドラえもん』全45巻と『てんとう虫コミックス大長

編ドラえもん』全17巻（計840話）と位置づけている（横山2004:52）³⁾。筆者は、横山氏の上記定義に基づき、「ストーリー性のある作品」であり、ドラえもん作品の正典でもある作品が所収されている『てんとう虫コミックス短編ドラえもん』全45巻823話のストーリーを分析していったところ、『ドラえもん』の多くの作品が日本の文化を物語の前提にしていることに気づいた⁴⁾。

日本の文化は日本で育った多くの日本人にとって、何らかの解説を必要せずとも理解可能なことであり、また、これらを前提とするストーリーを、その前提を意識することなく展開を楽しむことができる（はずである）。文化とは、育っていく過程で習得したものであるが、「それはあまりに当然すぎるが故に、日常的に意識することはほとんどない」（久米・長谷川2007:4）という特徴がある⁵⁾。が、日本で育ったわけではない外国人にとっては、ストーリーの前提となっている文化は自明ではない。そのため、登場人物たちの振る舞いが理解できない、あるいは、なぜそういった展開になるのか？このストーリーの面白さは何か？が理解できない可能性があり、それがストーリー全体の理解に困難を生じさせる可能性がある。

こういった困難は、しかし、見方を変えると、ストーリーの前提となっている日本の文化に焦点を当てることによって、日本の文化についての理解を促す役割を果たすことができるとも言えるだろう。

こうした考えから、筆者は、TV版『ドラえもん』を教材とする授業を行うにあたり、聞き取りで完結させるのではなく、そのストーリーの背景にある日本の文化についても学ぶという2本立ての授業にすることにした。

3. 授業の概要

「聴解C2」は、毎週木曜日の3限目に、前期（聴解C2S）、後期（聴解C2F）通年で、聞き取りと背景文化の学習という2本立てで提供している。1週目にTV版『ドラえもん』のアニメを使って聞き取りを行い、2週目に背景文化の学習を行う2週1セットの授業である。1学期間に7本のDVDを視聴し、7つの背景文化について学ぶ仕組みになっている。「聴解C2」の前期および後期のシラバスは、表1の通りである。

TV版『ドラえもん』を使った授業について
(佐々木 香代子)

表1 前期・後期のシラバス

回	話	聴解 C2S (前期)	話	聴解 C2F (後期)
1		オリエンテーション, 『ドラえもん』を視聴するに際しての必要事項の解説 (登場人物の紹介, 「未来の国からはるばると」視聴: ドラえもんはなぜのび太君の家にいるか? についての解説)		オリエンテーション, 『ドラえもん』を視聴するに際しての必要事項の解説 (登場人物の紹介, 「未来の国からはるばると」視聴: ドラえもんはなぜのび太君の家にいるか? についての解説)
2	①	ベロ相占いで大当たり	①	ざぶとんにもたましいがある
3		占い好き		多神教的感覚と付喪神
4	②	つめあわせオバケ	②	宝星
5		ゆうれい, オバケという存在, この世とあの世		宝探し
6	③	スクープのび太と秘密のデート	③	ドラえもんだらけ
7		有名人になりたい, めだちたい		日本の学校文化
8	④	温泉旅行	④	ドラドラ源平合戦
9		温泉旅館		判官びいき
10	⑤	子犬イチの国	⑤	のび太のおよめさん
11		ノラ犬, ノラ猫, ペットブーム		結婚するのが当たり前?
12	⑥	のび太土偶の謎	⑥	聖夜のドロボーサンタクロース
13		土偶と縄文時代		捨てる文化
14	⑦	竜宮城の八日間	⑦	ぼく, 桃太郎のなんなのさ
15		竜宮, 異界へのタイムスリップ, 昔話「浦島太郎」		鬼 (魔物), 昔話「桃太郎」

※1週目は, 聞き取るTV版『ドラえもん』のタイトル, 2週目は, 背景文化のテーマ

3.1 『ドラえもん』作品の背景文化となっている日本の文化

『ドラえもん』のストーリーの前提となっている日本の文化としては, 例えば, 昔話や神話 (「動物変身恩返しグスリ」「かぐやロボット」「タイムマシンがなくなった!」などの作品), ことわざや日本語の語彙・慣用的表現 (「ねこの手もかりたい」「まあまあ棒」「コベアベ」などの作品), 伝説や昔から人々の間で信じられてきた事柄 (「しずちゃんのはごろも」「ドロン葉」「ききめ一番やくよけシール」などの作品), 習慣 (「かべ景色きりかえ機」「おすそわけガム」「四次元くずかご」などの作品), 伝統文化 (「家元かんばん」, 「ぐうたらお正月セット」などの作品), 現代の社会・政治制度を含む現

代文化（「ポータブル国会」「地下鉄をつくっちゃえ」「天の川鉄道の夜」「テストにアンキパン」「アスレチック・ハウス」などの作品）、歴史（「白ゆりのような女の子」「ぞうとおじさん」「名刀〔電光丸〕」などの作品）、現代日本社会の問題・課題（「悪魔のパスポート」「天つき地蔵」「厚みぬきとりバリ」「山おく村の怪事件」などの作品）、海外から入ってきた文化だが現代日本の文化として定着している文化（「日づけ変更カレンダー」「しあわせトランプの恐怖」などの作品）などがあり、多岐にわたっている。

『てんとう虫コミックス短編ドラえもん』全45巻（全823話）に収められている作品の背景文化（但し、注4）で述べているように、「日本の文化」に限らない）の出現頻度をランキングにまとめると、表2のようになる。

表2 『てんとう虫コミックス短編ドラえもん』背景文化ランキング（上位10位）

順位	背景文化	頻度
1	子どもの遊び（うち、「ラジコンで遊ぶ」が13回、「プラモデルで遊ぶ」が7回）	38
2	学校（うち、「宿題」が15回、「テスト」が8回）	32
3	季節の行事、習慣	25
4	日本の昔話	12
	外国の小説	12
	草野球	12
7	オバケ	10
8	マンガ	8
	日本のテレビ番組	8
	外国の昔話	8

3.2 背景文化を学習するシラバス

聞き取りの対象とする『ドラえもん』作品の中心となっている「背景文化のテーマ」を文化学習のテーマとして定め、さらに、ストーリーの内容に沿って取り上げる具体的な項目を表3の下段のように配列し、シラバスを定めた。なお、具体的な項目として取り上げた項目の中には、ストーリー全体の理解を促すために、「日本の文化」に限らず、前期の⑤と⑦のような世界共通の科学的知識または理論も含まれている。

TV版『ドラえもん』を使った授業について
(佐々木 香代子)

表3 背景文化のテーマ（上段）と、授業で取り上げる文化項目（下段）

話	聴解 C2S（前期）	話	聴解 C2F（後期）
①	占い好き	①	多神教的感覚と付喪神
	占いの歴史，陰陽道，占いの種類，占いを信じる心理，日本の文学賞		日本の神話と八百万の神，付喪神絵巻と付喪神，言霊，人形供養
②	ゆうれい，オバケという存在，この世とあの世	②	宝探し
	ゆうれいと妖怪，この世とあの世，肝試し，他府県の墓と沖縄の墓		日本の埋蔵金伝説，昔話「はなさかじいさん」（DVDも併せて使用），宝探しをする人の心理
③	有名人になりたい，めだちたい	③	日本の学校文化
	有名になりたい人の心理，有名になりたい，めだちたい人についての割合（統計データ使用），「注目を浴びたい」ために犯した非常識な YouTube の事例，小学生の憧れの職業（統計データ使用）		日本の小学校の学期と授業科目，日本の学校の宿題（統計データ使用），学校行事
④	温泉旅館	④	判官びいき
	温泉の定義，日本人と温泉，和風旅館，団体旅行		源平合戦，源氏と平氏，源義経伝説，判官びいきという心情，昔話「牛若丸と弁慶」（DVDも併せて使用）
⑤	ノラ犬，ノラ猫，ペットブーム	⑤	結婚するのが当たり前？
	ノラ犬，ノラ猫と殺処分（統計データ使用），野生化したペットの問題，ペルム紀の大量絶滅		結婚についての考え方の変遷，少子化問題，同性間の結婚（以上，いずれも統計データ使用）
⑥	土偶と縄文時代	⑥	捨てる文化
	縄文時代の生活，縄文時代の代表的な遺跡，土偶		大量消費社会，東日本大震災をきっかけとした意識の転換（統計データ使用），リサイクル社会「江戸」と「もったいない」精神，日本のクリスマス，日本人の信仰心
⑦	竜宮，異界へのタイムスリップ	⑦	鬼（魔物）
	「常世の国」と竜宮，昔話「浦島太郎」（DVDも併せて使用），（学校の宿題のうち）夏休みの自由研究，タイムスリップ，タイムマシンのパラドックス		昔話「桃太郎」（DVDも併せて使用），鬼，「酒呑童子」

3.3 授業に使用する聞き取り教材

『ドラえもん』は1979年にTV放送が始まった。『てんとう虫コミックス短編ドラえもん』全45巻(全823話)に所収されている作品のうち、1979年当時にアニメ化されたのは247話(全体の30%)であり、TVアニメ化されなかった作品がある一方で、1979年以降複数回にわたってTVアニメ化された作品が複数ある(例えば、「アスレチックハウス」は1979年版と2007年版があり、「テストにアンキパン」は、1979年版、1992年版、2005年版がある)。また、TV放送開始時にはアニメ化されなかったものの、後に、TVアニメ化された作品(例えば、「水加工用ふりかけ」「木こりの泉」「ドラえもんが重病に?」など)、映画の原作となった作品(「のび太の恐竜」→「のび太の恐竜」(1980)「のび太の恐竜2006」(2006)「のび太の新恐竜」(2020)、「モアよドーヨー、永遠に」→「のび太の奇跡の島」(2012)、「さらばキー坊」→「のび太と緑の巨人伝」(2008)など)がある。

授業で使用したTV版『ドラえもん』は、表4の通りである。

表4 聞き取りに使用したTV版の、「てんとう虫コミックス短編」所収の有無

	てんとう虫コミックス短編 所収作品のタイトル	てんとう虫コミックス短編所収の有無 ()内は、短編のタイトルとは 異なる場合のタイトル
前期①	ペロ相占いで大当たり	あり(ペロ相占い大当たり)
②	つめあわせオバケ	あり
③	スクープのび太とひみつのデート	あり(めだちライトで人気者)
④	温泉旅行	あり
⑤	子犬イチの国	あり(のら犬「イチ」の国)
⑥	のび太土偶の謎	なし
⑦	竜宮城の八日間	あり
後期①	ざぶとんにもたましいがある	あり
②	宝星	あり
③	ドラえもんだらけ	あり
④	ドラドラ源平合戦	なし
⑤	のび太のおよめさん	あり
⑥	聖夜のドロボーサンタクロース	あり(ココロコロ)
⑦	ぼく、桃太郎のなんなのさ	あり

3.4 授業のコンセプト

授業は、2つの段階に分けて行っている。初めにTV版『ドラえもん』ストーリーの理解、次にそのストーリーの前提になっている日本文化の理解である。

3.4.1 第一段階：聞き取り

第一段階では、TV版『ドラえもん』の視聴を通して、日本語のディスコースレベルでの聞き取り能力を養う。聞き取り授業の1週間前に、筆者が翌週の聞き取りの質問シートおよび語彙リストをMicrosoft Teamsにアップし、学習者はそれに目を通しておくことを前提にしている。授業開始時に、質問の内容についての疑問点の有無を確認した後、聞き取りを行っている。聞き取りは、次の手順で行っている。

- ①前半、後半に分けて視聴する。前半部分の視聴が終わったら、質問をして内容理解の確認をする。
- ②後半部分の視聴が終わったら、質問をして内容理解の確認をする。
- ③前半、後半を通して再視聴する。
- ④ストーリーの中で、日常生活でよく使われるフレーズをとりあげ、その理解の確認をする。留学生がその意味や使い方を知らない場合は、説明して、再度、そのフレーズが登場する部分を視聴する。
- ⑤「おち」が理解できているかどうか確認する。

上記手順によって、「おち」を含めて、ストーリー全体を理解する能力を養うのが目標である。授業後、学習者は、質問シートを完成させ、筆者にメール送信するのが「聞き取り」課題である。筆者は、その課題をチェックし、日本語の誤りを添削した上で、「解答例」をつけて、個別にフィードバックしている。

3.4.2 第二段階：背景文化についての学習

第二段階では、ストーリーの前提になっている日本の文化について学ぶ。『ドラえもん』は、日本の文化（社会のシステム、生活習慣、日本人が持つ価値観など）を土台にして作られているので、『ドラえもん』を学ぶことで、日本人にとって「あたりまえな」日本の文化を学ぶことができると筆者は考えている。聞き取りの授業後、筆者が背景文化に関する読み物をMicrosoft Teamsにアップし、学習者は翌週の授業までにそれに目を通しておくことを前提にしている。背景文化の授業は、次の手順で行っている。

- ①背景文化に関する読み物について、筆者が質問を交えて理解の確認をしながら解説する。
- ②パワーポイントを使用し、読み物の補足を行う。
- ③背景文化について一通り学んだ後、留学生が自分の出身国・地域の事情について話し、

学習者同士で意見の交換を行う。

授業後、学習者は文化課題のシートに、自分の出身国・地域について調べたことや自分の考えを記入して、筆者にメール送信する。筆者は日本語の添削を行い、内容面についてのコメントを書いて学習者に個別にフィードバックする。

4. 授業の工夫と改善

4.1 改善

①フレーズを教える

聞き取りの授業は、初めは専ら物語のストーリーを追い、全体の内容を理解することを目標としていたが、理解を確認するための学習者とのやりとりの過程で、全体的な内容の理解には影響しないものの、学習者の中には、日常的に頻繁に使うフレーズではないが日本人なら誰でも理解可能なフレーズの中に、意味が分からないフレーズがあることに気づいた（例えば、「～したいのはやまやまなんだが」、「ガツガツして、みっともない」「つい、～につられてしまった」など）。

そこで、2022年度後期からは、全体的な内容の把握が完了した後で、フレーズに注目して、前後の文脈からその意味を類推する時間を作り、意味を理解するとともに使い方を練習する時間を設けた。

②昔話のDVDを見せる

ストーリーの中には、日本の昔話が背景文化になっているものがある。授業を行ううちに、学習者が（筆者にとっては意外にも）日本の昔話をあまり知らないということに気づいた。今までの授業で、学習者が皆、内容を「知っている」と答えたのは『桃太郎』のみである。それ以外は、学習者の中には知っている者もいる、といった程度であった。そのため、初めは昔話を読み物にして紹介していたが、試しにDVDを見せてみると、DVDの方が分かりやすく、且つ、より具体的なイメージを持つことができるという反応が得られたため、2021年度からは、読み物とDVDの両方を用いて昔話を紹介することにした。ただ、今年度までは、聞き取りが終わってから、背景文化を学習する時間のなかでDVDを見せていたが、ストーリーによっては、聞き取りの前に昔話のDVDを見せた方が、内容理解を容易にすると思われるものもあり、来年度（2023年度）は、内容によっては、初めに昔話のDVDを見せ、それから聞き取りを始めるように修正を加えることにしている。

4.2 工夫

①聞き取りの前に、聞き取りに必要な情報を提供する

後期に「ドラドラ源平合戦」というアニメを見せている（後期④）。このアニメはタ

TV版『ドラえもん』を使った授業について
(佐々木 香代子)

イトルが示すように、源氏と平氏の戦いという歴史的事件が背景になっている。日本の歴史を知らない学習者も受講しているため、聞き取りの前に、語彙リストだけでなく、「源氏と平氏」「源平の戦い」に関する読み物を teams にアップし、事前に目を通しておくよう指示している。これによって、聞き取りの過程で、「源氏」と「平家（平氏）」あるいは「源義経」「弁慶」「静御前」という人物の名前が出てきても、学習者がそこで意味が分からず立ち止まることなく、スムーズに聞き取りを進めていくことが可能になる。背景文化の授業では、聞き取りの前に得た源平合戦という知識を基にして、「源義経伝説」や「判官びいき」といった日本人の心情を紹介している。

②パワーポイントの活用

背景文化の授業では、事前学習として teams にアップした読み物を使用しているが、画像があったほう（＝視覚を通したほう）がより理解がしやすいため、（レジュメにも、画像の一部は貼り付けてあるものの）パワーポイントで画像を見せながら、解説を行っている。

③自分の出身国・地域について調べ、考える機会を提供する

背景文化を学習する時間は、第一には、視聴したアニメを通して日本の文化を学ぶことであるが、第二には、日本の文化を学ぶことを通して、自分の出身国・地域の文化を振り返ることにある。自分の出身国・地域の文化について調べ、自分の考えを述べることは、事後学習としての文化課題に含まれるが、一人でこの課題に取り組むよりは、他の学習者とのやりとりを通した方が、自分自身の知識を修正する（自分の出身国・地域のことはよくわかっているという思い込みを修正する）機会を提供するだけでなく、自分の考えを異なる角度から眺め、深める機会を提供することに役立つため、授業の中でも（出身国・地域の異同はあるものの）学習者同士で①自分の出身国・地域の文化について話す、②背景文化となっている日本の文化について意見を述べる時間を作っている。

また、文化課題を提出するとき、課題には、参考文献のリストを加えることを義務づけている。学習者によっては、自分の出身国・地域のことはよくわかっていると思い込んでいる場合があり、「ネット等で調べる」ことを義務づけないと、自分の思い込みで「自分の出身国・地域」の文化について書いてくることもある。筆者自身の経験でも、自分ではよくわかっているつもりでも、調べてみると、自分が思い込んでいたり、誤解していたりすることがわかる場合がある。学習者には、そういった思い込みや誤解を修正する機会を提供するため、ネット等で調べる（但し、1つのサイトでは、そのサイトに誤りがある場合があるため、複数のサイトを調べる）ことを義務づけている。

④世界が共有している背景知識を教える

聞き取るアニメの内容によっては、日本の文化以外にも、世界が共有する知識や理論

論がベースになっている場合がある。例えば、前期⑤のストーリーには、「ペルム紀の大量絶滅」という歴史的事実がベースにある。前期⑥のストーリーは、昔話「浦島太郎」がメインの背景文化ではあるが、ドラえもん達はこの昔話を「浦島太郎が龍宮という宇宙の星にタイムスリップした話」と解釈し、それを確かめるために過去の世界に行くというストーリーであり、タイムトラベルの理論がベースにある。そこで、日本の文化というわけではないが、学習者の内容理解を深めるために、こうした科学的知識・理論の紹介も併せて行っている。

5. おわりに

『ドラえもん』研究は筆者にとってライフワークである。そのため、自分の趣味を授業に使っているという見方もあるかもしれない。また、『ドラえもん』＝子ども向けアニメという固定観念で見る向きも多いだろう（特に、大学のような「アカデミックな」世界では）。が、筆者は、前述したように、『ドラえもん』は、単なるギャクマンガ（アニメ）ではないだけでなく、日本人がふだん意識することがない日本の文化（現代に至るまで受け継がれてきた伝統的な文化を含めた現代日本の文化）に気づかせてくれるマンガでありアニメであると考えている。さらに、ストーリーの前提となっている日本の文化を学ぶことを通して、学習者に、自分の出身国・地域の文化についての「気づき」を促すことができる。外国の文化を学ぶということは、すなわち、自分の出身国・地域の文化を新たな目で見つめ直す機会を得ることでもあると筆者は考えている。筆者は2023年度いっぱい定年を迎えるが、残り1年、『ドラえもん』を媒介として、学習者と、互いの文化を理解することができる（学習者が自分の出身国・地域の文化について話すことによって、筆者もまたその学習者の出身国・地域の文化について学び理解する機会を得ている）やりとりができればと思っている。

註：

- 1) 徐園（2007）は、漫画『ドラえもん』のストーリーの構造を「現実（第一部分）－夢（第二部分）－現実（第三部分）」の3つの部分に要約できる（徐園 2007: 54）とした上で、「第一部分の『現実』から第二部分の『夢』に入る標識がドラえもんの登場」である（徐園 2007: 59）と述べている。さらに、教育的観点から、第三部分で夢の世界から現実に戻り、のび太が失敗に終わることは子どもたちを夢の世界に置き去りにしないという意味で教育的意義がある（徐園 2007: 76）と指摘している。
- 2) 横山（2004）は、デビュー掲載誌（『よいこ』『幼稚園』『小学1年生』『小学2年生』『小学3年生』『小学4年生』6つの誌上で、1970年1月号から開始され、その後、

- 『小学5年生』『小学6年生』『月刊コロコロコミック』などに「ドラえもん作品」が連載または単独掲載されたこれらの雑誌を、横山は「デビュー掲載誌」と呼んでいる)と、①『てんとう虫コミックス』所収の短編との作品比較(文字と文章の異同、コマの挿入、絵、コマ数)および②『てんとう虫コミックス』所収の大長編とのコマ数比較を行い、登場人物のキャラクター分析、吹き出しのある登場回数、ひみつ道具の登場回数をまとめ、『ドラえもん』を学問として位置づけた。
- 3) 横山(2004)は、「藤子氏の自選集であり、ディレクターズカット版であり、ドラえもん作品のベストセレクションであり、ほとんど改訂の完了している」(横山2004:52)『てんとう虫コミックス』短編と大長編をドラえもん作品の正典としている。
 - 4) 『ドラえもん』の作品の多くが日本の文化を前提としているが、物語の前提としているのは日本の文化とは限らない。例えば、「おおかみ男クリーム」「ランプのけむりオバケ」など外国の文化を前提としている作品、「地底のドライ・ライト」、「のび太は世界にただ一匹」などのように世界が共有している課題を前提としている作品、「しずちゃんをとりもどせ」、「サンタイン」「恐竜さん日本へどうぞ」など多くの国々が共有している価値観や科学的知識などを前提とした作品がある。
 - 5) 文化の定義として、八代,他(2001)は、①私たちのDNAにプログラムされたものではなく、意識的、無意識的に学習されたもの、②ある集団によって共有されているもの、③ふだん意識しないもので、特に同じ文化を共有している人々の間では「常識」となっているもの、④世代から世代へと無意識のうちにつけがれるもの(八代,他2001:26)と述べている。

参考文献

- (1) 久米昭元, 長谷川典子(2007)『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション: 誤解・失敗・すれ違い』(選書)有斐閣。
- (2) 佐々木香代子(2021)「TV版ドラえもん『ざぶとんにもたましいがある』の一考察」『沖縄国際大学総合学術研究紀要』23巻1号, pp.1-16.
- (3) 徐園(2007)「夢から現実への回帰—『ドラえもん』のストーリーパターンについて—」, 『新聞学』vol.22, pp. 44-81.
- (4) 八代京子他(2001)『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社。
- (5) 横山泰行(2004)『「ドラえもん学」研究序説: 野比家の謎』日本文芸社。
- (6) 横山泰行(2005)『ドラえもん学』PHP研究所。

(琉球大学 国際教育センター)

執筆者紹介

あしはら きょうこ
葦原 恭子 (琉球大学 国際教育センター 教授)
日本語教育・異文化コミュニケーション

おくやま たかゆき
奥山 貴之 (沖縄国際大学 総合文化学部 日本文化学科 准教授)
日本語教育・日本文学

ささき かよこ
佐々木香代子 (琉球大学 国際教育センター 准教授)
日本語教育

しおたに ゆみこ
塩谷 由美子 (東京富士大学 経営学部 教授)
日本語教育

しまだ めぐみ
島田 めぐみ (日本大学大学院 総合社会情報研究科 教授)
日本語教育・言語テスト

のぐち ひろゆき
野口 裕之 (名古屋大学名誉教授)
言語テスト・教育測定

琉球大学国際教育センター紀要 規定

1. 投稿資格:琉球大学グローバル支援機構国際教育センター所属教員(非常勤講師含む)および当センターにおいて適当と認められた者とする。共著の場合、前述の教員が1名含まれていなければならない。ただし「内容区分 f.報告」はこの限りではない。
2. 内 容: 未発表のもので日本語教育・外国語教育およびその関連領域とする。
3. 内容区分: a. 研究論文, b. 調査報告, c. 実践報告, d. 研究ノート, e. 書評, f. 報告 (a~e にあてはまらないもの), のいずれかとする。
4. 特別寄稿: 招聘事業の講演者等に依頼し, 原稿を掲載する。
5. 使用言語: 本文は日本語または英語とする。
6. 書 式: 横書きワープロ(ワード)入力で, A4判に39字×35行とし, 原則として16枚程度(研究ノート, 書評も同様)とする。図表・参考資料・参考文献・註等もこの分量の範囲に含める。(本文・参考文献・註の文字・行の縮小は不可) 文献の書き方等は学会誌『日本語教育』の規定に準ずる。詳細は別途委員会で定めたものに従う。
7. 要 旨: 研究論文には和文(400字以内)と英文(200語以内)の要旨をつける。調査報告, 実践報告には和文(400字以内)の要旨をつける。またそれぞれ, 5語以内でキーワードを付す。研究ノートについてはこの限りではない。
8. 編集委員: 紀要の発行にあたっては国際教育センター教員によって, 紀要編集委員会を置く。委員会のメンバーは3名とし, 原則として1年ごとに1名ないし2名交代する。
9. 採 否: 紀要編集委員会で採否を決定する。
10. 発 行 日: 紀要の発行は年1回とする。
11. 著 作 権: 著者の申し出が特にない場合, 投稿された著作物は琉球大学学術リポジトリへ登録するものとする。ただし, この場合, 著作物の著作権は原著作権者(著者)に帰属するものとする。

[2020年4月1日改定]

琉球大学国際教育センター紀要 第7号
(琉球大学留学生センター紀要 通算20号)

発行 2023年3月

.....
発行：琉球大学グローバル教育支援機構
国際教育センター
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
電話 (098) 895-8139



琉球大学

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

1 Senbaru, Nishihara-cho, Nakagami-gun
Okinawa JAPAN 903-0213